

久留米市地場企業景況調査レポート(平成19年7月～9月期調査分)

< 調査目的 >

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

< 調査対象 >

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

< 調査要領 >

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

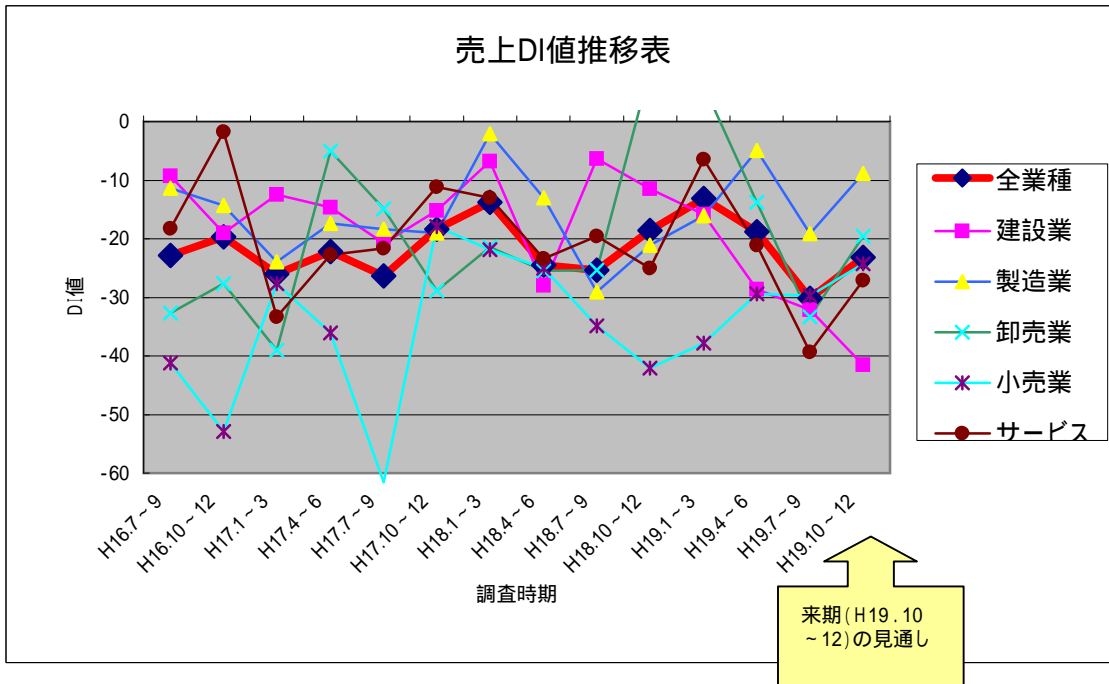
< DI値とは >

DI(ディーアイ。Diffusion Index:景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

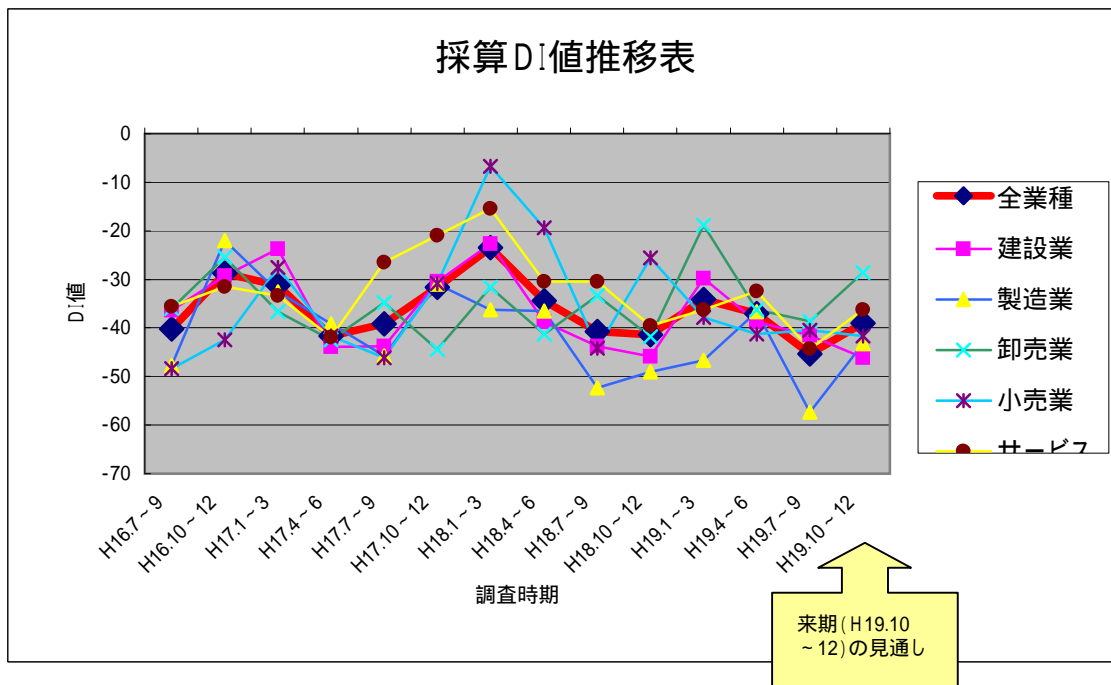
$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

< 平成19年4月～6月期調査分回収結果 >

業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	278	46.3%
建設業	120	54	45.0%
製造業	120	68	56.7%
卸売業	120	57	47.5%
小売業	120	37	30.8%
サービス業	120	62	51.7%

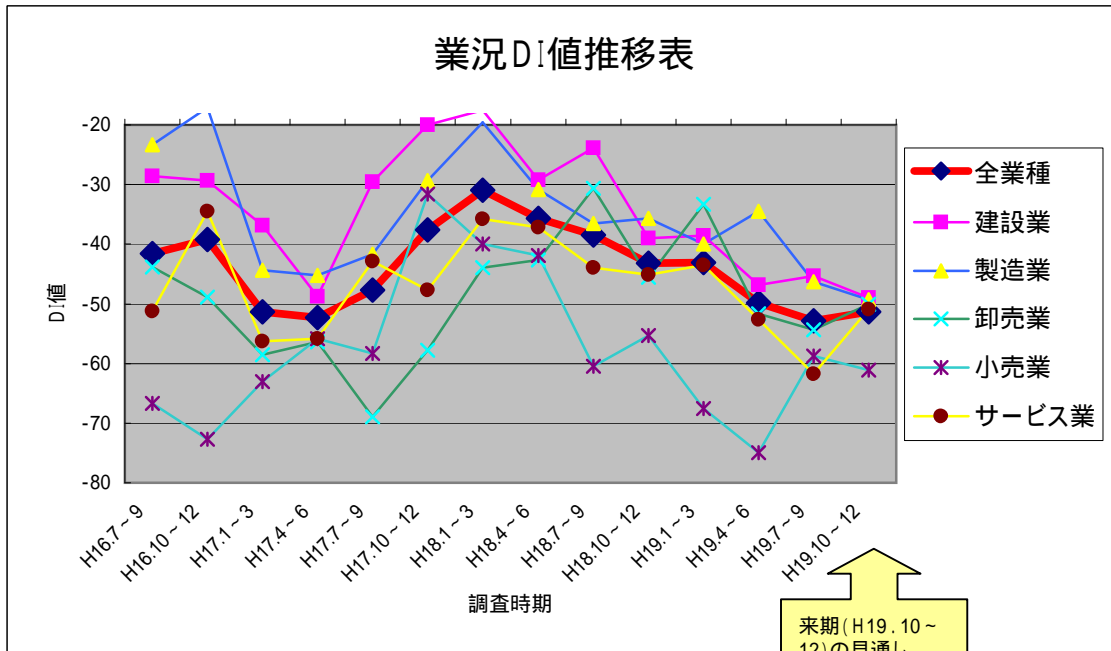


今期(H19.7~9)の久留米市地場企業景況調査で売上面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は54社(前期比8社減)、「減少した」と回答した企業は137社(前期比30社増)、「横ばいである」と答えた企業は84社(前期比13社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期連続で拡大して 30.2となり、前期比で11.4ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 32.1(前期比3.5P悪化)、製造業 19.1(前期比14.2P悪化)、卸売業 33.3(前期19.5P悪化)、小売業 29.7(前期比0.3P悪化)、サービス業 39.3(前期比18.2P悪化)となった。来期(H19.10~12)の見通しでは全業種DI値は 23.2と、7.0ポイント改善する見込み。



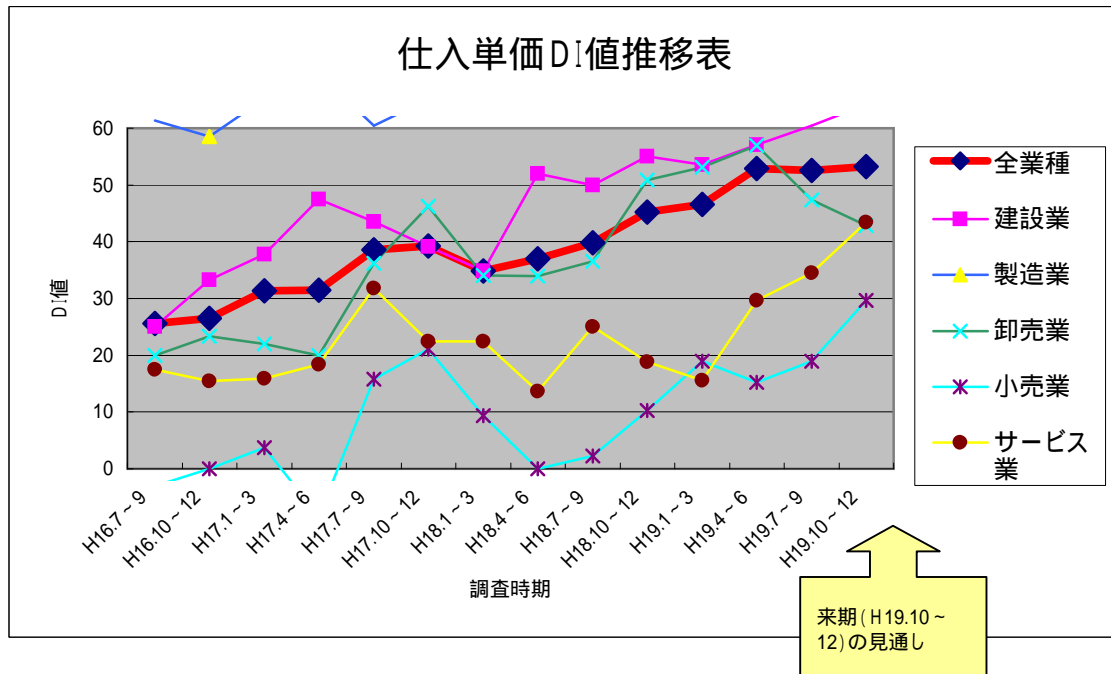
今期(H19.7~9)の久留米市地場企業景況調査で採算面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は21社(前期比1社減)、「悪化した」と回答した企業は146社(前期比36社増)、「横ばいである」と答えた企業は109社(前期比3社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期連続で拡大して 45.3となり、前期比で8.3ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 41.5(前期比2.7P悪化)、製造業 57.4(前期比20.7P悪化)、卸売業 38.6(前期比2.4P悪化)、小売業 40.5(前期比0.7P改善)、サービス業 44.3(前期比11.9P悪化)となった。来期(H19.10~12)の見通しでは全業種DI値は 39.0と、6.3ポイント改善する見込み。

業況DI値推移表



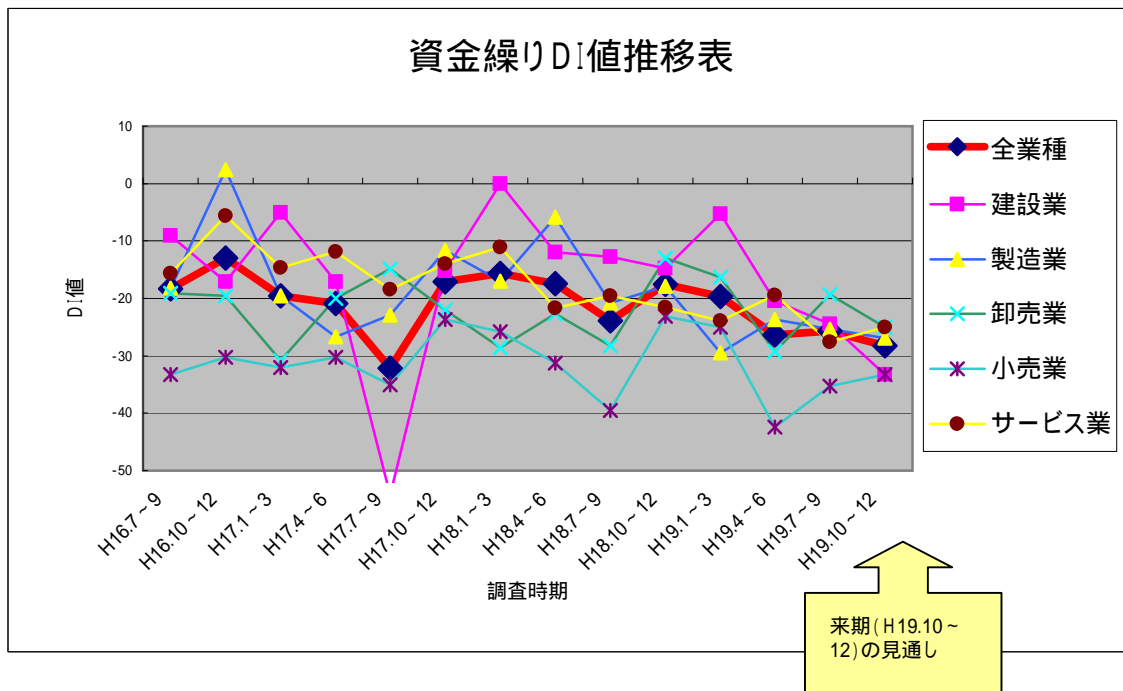
今期(H19.7~9)の久留米市地場企業景況調査で業況面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は14社(前期比1社減)、「悪化した」と回答した企業は157社(前期比26社増)、「横ばいである」と答えた企業は100社(前期比13社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期連続で拡大して52.8となり、前期比で3.0ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業45.3(前期比1.5P改善)、製造業46.3(前期比11.8P悪化)、卸売業54.4(前期比2.7P悪化)、小売業58.8(前期比16.2P改善)、サービス業61.7(前期比9.1P悪化)となった。来期(H19.10~12)の見通しでは全業種DI値は51.3と、1.5ポイント改善する見込み。

仕入単価DI値推移表



今期(H19.7~9)の久留米市地場企業景況調査で仕入単価面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は158社(前期比17社増)、「低下した」と回答した企業は16社(前期比1社増)、「横ばいである」と答えた企業は96社(前期比14社増)であった。DI値を見ると、6期ぶりに縮小して52.6となり、前期比で0.3ポイント縮小した。業種別のDI値では、建設業60.4(前期比3.3P増)、製造業83.8(前期比3.5P増)、卸売業47.4(前期比9.5P減)、小売業18.9(前期比3.7P増)、サービス業34.5(前期比4.8P増)となった。来期(H19.10~12)の見通しでは全業種DI値は53.2と、0.6ポイント拡大する見込み。

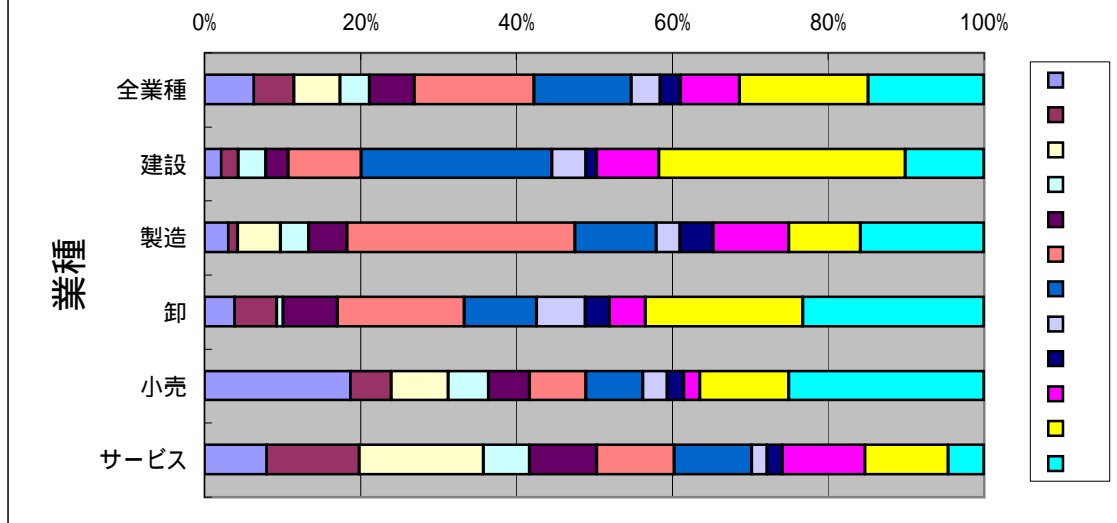
資金繰りDI値推移表



今期(H19.7~9)の久留米市地場企業景況調査で資金繰り面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は11社(前期比5社増)、「悪化した」と回答した企業は80社(前期比12社増)、「横ばいである」と答えた企業は178社(前期比17社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は3期ぶりに縮小して 25.7となり、前期比で0.7ポイント改善した。業種別のDI値では、建設業 24.5(前期比4.1P悪化)、製造業 25.4(前期比1.7P悪化)、卸売業 19.3(前期比10.0P改善)、小売業 35.3(前期比7.1P改善)、サービス業 27.6(前期比8.2P悪化)となった。

来期(H19.10~12)の見通しでは全業種DI値は 28.2と、2.5ポイント悪化する見込み。

経営上の問題点(複数回答可)



大企業の進出による競争の激化 同業者の進出 消費者ニーズへの対応 人件費の増加 人件費以外の経費の増加 仕入単価の上昇 販売価格の低下 金利負担の増加 事業資金の借入難 従業員の確保難 需要の停滞 その他

今期(H19.7~9)の経営上の悩みとしては、「仕入単価の上昇(15.3%)」「需要の停滞(16.5%)」を指摘する声が多く寄せられている。

特に、建設業での「請負単価の低下(24.5%)」「官公需要の停滞(31.7%)」、製造業の「原材料仕入単価の上昇(29.3%)」、卸売業の「需要の停滞(20.2%)」、小売業の「大型店・中型店の進出による競争の激化(18.8%)」、サービス業の「利用者ニーズの変化への対応(15.9%)」に意見が集中した。

<事業所から寄せられたコメント>

- 「受注数は前期比横ばいを確保できている」(土木建築サービス業)
- 「受注がない月があり、従業員の給与の支払いが困難」(左官工事業)
- 「9月・10月は工事着工件数が少ないため、価格競争が激しい」(建築工事業)
- 「受注量が年々減少中のため、今後の先行きが不安定」(土木建築サービス業)
- 「売上の減少に伴い、従業員を休ませ人件費を減らしている状況」(建具製造業)
- 「今期は飼料価格が高騰している」(その他の製造業)
- 「原材料価格の上昇により生産コストが上昇」(畜産食料品製造業)
- 「大型スーパー進出の為、個人事業が伸びず得意先からの受注が減少」(その他の食料品製造業)
- 「小売業の安売りの為、販売価格が低下している」(家具・建具・什器等卸売業)
- 「事業資金借入れが困難」(家具・建具・什器等卸売業)
- 「若年層の従業員確保が難しい。中高年従業員ばかりで人件費増が悩み」(農畜産物・水産物卸売業)
- 「建築工事の受注が減ったため、それに併せて需要が停滞している」(建築材料卸売業)
- 「7、8月は動きが無く、期待していた9月もほとんど変わらず。今後の上向き傾向も無し」(建築材料卸売業)
- 「昨年同期に比べ売上増、固定客が安定してきた」(化粧品小売業)
- 「オール電化への住宅事業の変貌」(液化石油ガス小売業)
- 「大型店進出による競争の激化」(自転車小売業)
- 「利用客の他地域への流出が当面の課題」(婦人服小売業)
- 「利用者のニーズが多様化し、対応が難しい」(理容業)
- 「利用料金が低下し、併せて材料等仕入単価も上昇しており、経営が厳しい」(建物サービス業)
- 「来店客数の低下により売上が減少」(理容業)
- 「新規参入業者の進出に伴う競争の激化」(建物サービス業)
- 「原油価格の高騰による物価の上昇への影響が心配」(美容業)